

鳴門教育大学

学校教育研究紀要

No.35

NITS 四国アライアンス鳴門教育大学センターを基盤とした県教育委員会と連携による管理職養成研修	1	前田 洋一, 竹内 敏, 谷 陽子
理科教員志望学生は身近に生育する栽培植物をどのように観察してどれくらい正しく同定できるか	9	寺島 幸生
小型プラスチック容器を用いたメダカの孵卵と発生過程の観察	13	寺島 幸生
児童養護施設における不登校児支援 —公的事業における期待と実践における課題—	19	西林 佳人, 田中 淳一, 高橋 眞琴
障害支援フィールドにおける COVID-19 をめぐる現状と課題	29	中村 友香, 藤澤 憲, 中西 裕子, 西林 佳人, 守谷安津蓉, 小河理恵子, 高橋真一郎, 亀井 有美, 高橋 眞琴
a^n の数列の下二桁の数の規則性	39	四方 美妃, 吉岡 瞭吾, 松野 敦宏, 成川 公昭, 宮口 智成, 金児 正史
子どもの自主的な読書習慣の形成に向けて	45	阪根 健二, 小堀 訓子, 池上 朗子, 北島 孝昭
学校現場における「テレビ会議システム」の有効活用について	57	阪根 健二, 池上 朗子, 小堀 訓子, 北島 孝昭
地域連携センターにおける「テレビ会議システム」の取り組み	69	竹口 幸志, 阪根 健二, 藤野 雅幸
多感覚を用いた教育実践における定性データから定量データへの変換の試み	75	藤澤 憲, 田中 淳一, 高橋 眞琴
ヴィゴツキーの『教育心理学講義』に学ぶ(1) —心理学の観点からみた教育—	81	皆川 直凡
K-12 Computer Science of Framework の構成概念と情報活用能力の比較 —Impacts of Computing と情報モラル—	91	竹口 幸志
就学前施設における保育記録のあり方に関する研究 —A市保育者のインタビュー分析を手がかりに—	101	中川 欣子, 塩路 晶子
中学校における人間関係を形成するプログラムの開発 —人・もの・ことの出あいを学習資源として—	111	小坂 浩嗣, 園田 雪絵
英語授業の教授言語：過去 30 年の日本語使用と英語使用の傾向	121	表 昭浩, 川上 綾子
コミュニケーション能力と規範意識を育む小学校における学級活動	131	名目良律子, 末内 佳代
課題解決型の保健室経営計画に対する養護教諭の意識と課題	141	利岡 美音, 池田 誠喜
道徳基盤理論を基にした小学生用道徳性尺度の作成	147	井原 賢一, 池田 誠喜
主体的・対話的で深い学びを促す特別支援学校中学部での取組 —自閉的傾向のある生徒に対するムーブメント教育・療法の一事例—	155	尾関 美和
月は西から昇る：鳴門教育大学生驚愕の真実	163	村田 守, 川真田早苗
「生きる力」を育む中高生・次世代を対象とした家庭教育支援プログラムの開発 —徳島県「未来の家庭へつなぐとくしまの若者育成事業」の取組—	171	木村 直子
成人期自閉スペクトラム症者のライフキャリア —働く 20・30・40・50 代の事例からの示唆—	179	大谷 博俊
これからの学校における教員の「役割」について —学校内外の協働関係構築における課題に注目して—	187	芹澤 光, 芝山 明義
生徒の人権意識を高める学校経営に関する事例研究	195	大林 正史, 芝山 明義, 葛上 秀文, 金森 三枝, 小坂 浩嗣
若手教員の教師力向上に関する取組の開発と実践	205	中妻 佳代

- 鳴門教育大学学校教育研究紀要(以下「紀要」という。)は、主として次の投稿論文を掲載する。
 - 地域連携センター(以下「センター」という。)の客員研究員研究プロジェクト(以下「研究プロジェクト」という。)の研究成果である未発表の投稿論文
 - センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
 - その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
 - 紀要に執筆できる者は、次のとおりとする。
 - 本学の専任教員及び附属学校園教員
 - 本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
 - その他センター所長が特に認めた者ただし、(1)(2)(3)ともに、共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし、第一著者は本学の専任教員、附属学校園教員、研究員、客員研究員、研究補佐員、大学院生(連合大学院生を含む。)のうちいずれかとする。
 - 投稿論文の区分は、次のとおりとする。
 - 問題提起と研究成果・理論的考察を備えた、比較的まとまったものを原著論文とする。
 - 研究の経過報告、調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
 - 第一著者として投稿できる論文数は、1執筆者につき2編までとする。
 - 投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては、センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
 - 投稿論文の著作権及び公開については、次のとおりとする。
 - 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし、鳴門教育大学に対して、継続的に複製権、公衆送信権を許諾することとする。
また、投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責務は投稿者が負うものとする。
 - 論文は原則としてウェブページで公開するものとし、掲載が認められた時点で、著者の許諾があったものとして取り扱う。なお、特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は、理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し、非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
 - 執筆要項は、原則として次のとおりとする。
 - 原稿は、和文あるいは英文によるものとする。原則としてMS-Wordあるいは一太郎を用いる。印刷サイズはA4版の縦おきで、上下左右の余白は各々25mm、20mm、15mm、15mmとし、文と図、表、写真、文献等を含めて作成する。和文、英文ともに刷り上がりページ数は、原則として原著論文は10ページまで、研究報告は6ページまでとする。
 - 和文原稿は、常用漢字、新かなづかいで横書きとする。冒頭には、タイトル、タイトル(英文)、著者名、所属と所在地、著者名(英文)、所属と所在地(英文)、抄録(200～400字)、キーワード(重要な順に3～5語)、アブストラクト(英文、200ワード以内)、キーワード(英文)を1段組で、それ以降の本文、引用文献等は2段組(25×48行×2段組、段間は10mm程度)で記す。
本文の書体は明朝体(9pt)を標準とする。句読点は、原則として「,(コンマ)」と「。(句点)」に統一する。1桁の数字は全角、2桁以上の数字は半角、アルファベットは半角を基本とする。
 - 英文原稿は、冒頭に、タイトル、著者名、所属と所在地、アブストラクト(200ワード以内)、キーワード(重要な順に3～5語)を1段組で、それ以降の本文、引用文献は2段組(48行×2段組、段間は10mm程度)で記す。
本文の書体はTimes(9pt)を標準とする。
 - 氏名をアルファベット表記する場合の姓名の順序は、和文及び英文原稿ともに、母国の標記の順序(例:日本語の場合はYAMADA Taro)とし、姓は大文字で表記する。
 - 本文の見出しの番号の付け方は、和文原稿ではゴシック体(9pt)全角で、英文原稿ではArial(9pt)で、次のようにする。
大見出し ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。
中見出し アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
小見出し 片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
1. …
1) …
2) …
3) …
2. …
 - 図表
図(写真を含む)や表は、鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ、1枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き2ページを超えないものとする。必要な場合は1段組にしてもよい。
図題は図の下に、和文原稿では図1、図2…のように、英文原稿ではFig. 1, Fig. 2…のように記す。また、表題は表の上に、和文原稿では表1、表2…のように、英文原稿ではTable 1, Table 2…のように記す。図題、表題ともに、和文原稿はゴシック体(9pt)、英文原稿ではArial(9pt)で、中央揃えとする。
写真は白黒写真を原則とし、挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお、カラー写真の掲載を希望する場合には、その印刷実費は第1著者又は研究代表者の個人(研究費)負担とする。
 - 参考文献及び引用文献
 - 本文中での文献の引用は、英字、記号、数字を半角とし、以下のとおりとする。
(例) GAGNE (1970b) は……
前田 (1969) は、……。
……と述べている (GAGNE, 1970b)。
……と述べている (前田, 1969)。
 - 文献は、投稿論文の最後に一括して、著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字、記号、数字を半角とし、以下の形式を標準とするが、他の形式を用いてもよい。
 - 論文の場合は、著者名、発表年、表題、雑誌名(書名)、巻(号)、ページ。
(例) 鳴門太郎 (1900)、日本の学校、日本教育、16(1)、pp.1-10。
鳴門太郎:『日本の学校』、『日本教育』、Vol. 16, No.1, pp.1-10, 1990年。
『日本の学校』、鳴門太郎、『日本教育』、第16巻第1号、1-10頁、1990年。
 - 単行本の場合は、監編著者名、出版年、書名、出版社、ページ。
(例) 鳴門太郎編著 (1900)、日本の学校、日本出版、pp.1-200。
鳴門太郎編著:『日本の学校』、日本出版、1-200頁、1990年。
『日本の学校』鳴門太郎編著(日本出版、1990年、全200頁)
 - 外国文献の単行本の場合は、編著者名(出版年)、書名、出版社所在地、出版社、ページ。
(例) NARUTO, Taro (1900), The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp.1-200.
 - 注記は必要な場合には本文の最後、文献の前に一括して記述し、本文中では該当箇所の右肩上付で、注1)、注2)のようにして示す。
 - 研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については、文献の後に付記として、当該研究プロジェクトの年度、研究題目を明示する。
- 投稿は、文書ファイルを、教務企画部社会連携課地域連携係までメール(chiiki@naruto-u.ac.jp)にて提出する。
- 校正は著者が責任を持って行い、誤植の訂正のみとし内容の加筆、修正、削除等は受け付けない。
なお、著者校正は初校のみとする。
- 別刷の費用は、個人(研究費)負担とする。

Bulletin

of

Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.35, Feb, 2021

Contents

Original Papers

- 1 Yoichi MAEDA, Satoshi TAKEUCHI and Yoko TANI
The Manager Training Course in Collaboration with the Prefectural Board of Education based on the NITS Shikoku Alliance Naruto University of Education Center
- 9 TERASHIMA Yukio
How Do Pre-service Science Teachers Observe Living Plants Cultivated in Daily Life and How Correctly Can They Identify Such Plants?
- 13 TERASHIMA Yukio
Incubation of Killifish Eggs and Observation of Its Growth Process Using Small Plastic Containers
- 19 NISHIBAYASHI Yoshito, TANAKA Junichi and TAKAHASHI Makoto
Support for truant children in children's homes
— Expectations and challenges in public service and practice —
- 29 NAKAMURA Yuka, FUJISAWA Ken, NAKANISHI Yuko, NISHIBAYASHI Yoshito, MORIYA Atsuyo, OGAWA Rieko, TAKAHASHI Shinichiro, KAMEI Yumi and TAKAHASHI Makoto
The Current Situation and Issues Surrounding COVID-19 in the Field for People with Disabilities
- 39 SHIKATA Miki, YOSHIOKA Ryogo, MATSUNO Atsuhiko, NARUKAWA Kimiaki, MIYAGUCHI Tomoshige, KANEKO Masafumi
Some properties of the sequence of numbers $\{a^i\}$
- 45 SAKANE Kenji, KOBORI Kuniko, IKEGAMI Akiko and KITAJIMA Takaaki
The formation of children's voluntary reading habits
- 57 SAKANE Kenji, IKEGAMI Akiko, KOBORI Kuniko and KITAJIMA Takaaki
Effective use of the "Teleconference System" on site at schools
- 69 TAKEGUCHI Koji, SAKANE Kenji and FUJINO Masayuki
A Program to use of the "Teleconference System" on site at Center for Collaboration in Community Naruto University of Education
- 75 FUJISAWA Ken, TANAKA Junichi and TAKAHASHI Makoto
An attempt of quantitative analysis of qualitative data obtained from multisensory educational practice
- 81 MINAGAWA Naohiro
Learning from Vygotsky's "Educational psychology lecture" (1)::
Education from a psychological standpoint
- 91 TAKEGUCHI Koji
A Comparison of K-12 Computer Science of Framework Concepts and Information Utilization Abilities
— Impacts of Computing and Information Ethics —
- 101 NAKAGAWA Yoshiko and SHIOJI Akiko
Research on practical records in Preschools
— Through Analyzing interviews of Early childhood Education teachers —
- 111 KOSAKA Hirotsugu and SONODA Yukie
A Practical Study of Program Building Human Relations for Junior High School Students:
People, Goods and Activity.
- 121 OMOTE Akihiro and KAWAKAMI Ayako
The Instructional Speech in the English Classroom: A Trend Between Two-Language Use Over the Past Three Decades
- 131 NAMERA Ritsuko and SUEUCHI Kayo
Classroom activities in elementary schools that foster communication skills and norm awareness
- 141 TOSHIOKA Mine and IKEDA Seiki
Yogo teacher's consciousness and issues for problem-solving type management plan of the school health room for children's health.
- 147 IHARA Kenichi, IKEDA Seiki
Development of morality scale for elementary school students based on moral foundation theory
- 155 OZEKI Miwa
Initiation to promote proactive, interactive and deep learning in Special-needs middle school
— A Case Study of Movement Education and Therapy for Students with Autistic tendency —
- 163 MURATA Mamoru and KAWAMATA Sanae
The moon rises in the west: shocking facts of the students of Naruto University of Education
- 171 KIMURA Naoko
Developing family education support programs targeting high school students, / next generation youth to cultivate the ;
'competency (Ikiru chikara)'; 'ability to maintain inter-personal relationships';
Initiatives from Tokushima Prefecture's Project to Cultivate the Youth of Tokushima to Lead to the Families of the Future
- 179 OTANI Hirotohi
Life career among adults with autism spectrum disorder:
suggestions from cases of working adults in their twenties, thirties, forties, and fifties
- 187 SERIZAWA Hikaru and SHIBAYAMA Akiyoshi
About "the role" of the teacher in school in the future
— Pay attention to problems in the construction of the collaboration relations inside and outside the school —
- 195 OBAYASHI Masafumi, SHIBAYAMA Akiyoshi, KUZUKAMI Hidefumi, KANAMORI Mie and KOSAKA Hirotsugu
Case study on school management to raise students' awareness of human rights
- 205 NAKATSUMA Kayo
The development and implementation of methods to improve the teaching ability of young teachers